「短期交換留学プログラム（HUSA）インターンシップコース開講：地域企業・官公庁との連携」

恒松直美

短期交換留学プログラム開講コース「インターンシップ」

広島大学短期交換留学プログラムでは、プログラムの一環として、2003 年度前期（春学期）よりインターンシップコースを開講している。対象者は日本語上級コース（レベル１－５の段階別コースのうちレベル５）を受講している HUSA 留学生である。本稿ではこの「インターンシップ」コース開講にあたっての、インターン派遣のための企業・官公庁[1]との交渉、その実現への経緯、官公庁・企業からの学生インターン評価についての報告、及び学生のインターンシップ体験報告を考察し、今後のインターンシップコース発展に役立てたい。今後も毎年度前期にインターンシップコースを開講していく予定であるが、インターンをさらに発展させていくためには、さらなる尽力が必要である。また、商工会議所、地元企業、市役所などの地元公共機関からの継続した支援、協力が必須である。2004 年度は、2003 年度に続き２回目の取り組みとなったが、この２回に渡るインターンシップコースへの取り組み、その実情について言及してみたい。

まず、2003 年度、2004 年度の企業・市役所への派遣の状況について説明し、企業・市役所からの学生インターン評価、学生のインターンシップ体験報告について考察してみたい。インターンシップ実現への手順は、１）日本語上級レベルの留学生へのインターンシップコースへの受講希望の有無確認　２）科目登録の提出（希望職種など）３）企業・官公庁との交渉　４）派遣先の決定　である。

ＨＵＳＡプログラムで配布しているインターンシップコースシラバスではコースの目的を下記のように掲げている。学生に配布したシラバスについては最後に掲載した。

- このインターンシップ科目は、短期交換留学（HUSA）プログラムの特別聴講生を対象とした科目である。**この科目は、日本の行政機関、公的機関及び、企業における就業体験を通して、日本の文化・社会・雇用システムの理解をより深めることを目的とする。**学生は、インターンとして勤務中、その機関・企業に関する有益な調査・研究を行わなければならない。

---

[1] 本稿では、実際の企業、官公庁名を記載している。敬称は略させていただいた。また、企業・官公庁に対する敬語も省略させていただいた。

現時点ではシラバスで**「履修生は、日本語能力が上級(レベル５)でなければならない。」と定め、日本語で職務が遂行できるレベルとしている**が、今後受け入れ側がどの程度の日本語レベルが必要であると見なすかにより、もう少し日本語レベルが低くても受け入れが可能になっていく可能性もある。企業によっては、日本語を必ずしも習得していない外国からの実習生が働いている場合もあり、今後は日本語が上級レベルでなくてもインターンの受け入れを検討してもらえる可能性もある。また、企業で外国語のできる社員が、その外国語を使用して仕事をしている場合は、特に日本語ができなくても、その言語のできる留学生がインターンとして働くことが可能である旨も、企業から伝えられた。さらに、企業自体が社員の語学研修という目的で、外国人のインターン受け入れを効率的に活用し、外国語習得に向けて講師として協力を依頼したり、時間を設定してその時間は決められた外国語のみ使用することとし、語学習得の努力をしている姿勢もみられた。

企業・市役所へのＨＵＳＡ学生インターン派遣数

2003 年度前期　３人　（東広島市役所１人、東広島市内企業１人、及び東京の企業１社１人：学生が自分で交渉　[Albany Nordiskafilt KK]）

2004 年度前期　６人　（東広島市役所１人、東広島市内企業三社各１人ずつ、及び東京の企業二社各１人ずつ：学生が自分で交渉 [Kawamura Hideo Activity, 巣巣 SUSU]）

本稿ではＨＵＳＡディレクターとコーディネーターが直接交渉して成立したインターンシップ６件（2003 年度２件、2004 年度４件）について述べたい。

企業・市役所への依頼：インターンシップコース開講にあたっての交渉・派遣

＜2003 年度前期＞

2003 年度前期に日本語上級レベルでインターンシップを希望した学生は２人いた。東広島の企業及び市役所に各一人ずつ受け入れをお願いする方向で、交渉を開始した。

１）　企業

東広島市における企業でのインターン派遣を進めるにあたって、東広島市商工会議所の協力、尽力は不可欠であった。商工会議所の協力なしに、企業でのインターン受け入れはかなり困難であったと言わざるを得ない。

まず、東広島市、広島市内の企業数社に直接電話をかけ、インターンシップコースについて簡潔に説明し、考慮いただくことは可能か伺ったが、反応は薄かった。もし、考慮していただくことが可能なら、企業を訪問し、インターンシップコースの詳細について説明し、実行に向けて交渉することを意図していた。**まず第一段階は、インターンシップについて説明する機会をもつため、訪問を承諾してもらうことである。**これまで共同研究などで協力した経緯なども全くなく、面識のないままインターンシップについて簡潔に説明し、面会に伺うことに、必ずしもすべての会社が即同意してくれたわけではなかった。また、面識もなく電話一本でインターン受け入れを承諾していただくことはほぼ不可能といってよい。ある広島市内の会社の場合、電話でインターンシップについて訪問させていただくことを依頼したが、「時間ばかりとられて全く役にたたない」と断られた。こういった反応は、外国人留学生のインターンの受け入れをすることで、かなりの労力と時間のとられる企業の側からは当然の反応といってよい。特にＨＵＳＡインターンシップコースの場合、２週間という短い研修期間であり、実際、学生はほとんど企業の役に立っていない。会社についての説明を受け、会社の概要と一部の部署の仕事内容を把握し、一部実習をさせてもらう程度しか達成できないのが実情である。

東広島商工会議所[2]に連絡し、面談し、インターンシップコースについて説明したい旨を伝え、訪問してから企業へのインターン派遣のすべてが動き出したと言える。商工会議所訪問の際は、企業でインターンシップを希望する学生の自己紹介と、希望職種についての書類を提出し、企業への依頼の際に参考にしていただいた。商工会議所を通して、海外に支社をもつサタケに連絡していただき、受け入れが決定した。サタケは会社が主催するインターンシッププログラムを持っており、インターンシップについての概要を既に把握しており、受け入れ決定後は社内で適切な部署を探していただいた。受け入れ部署が決定後、学生を連れて挨拶に伺った。

---

[2] 東広島商工会議所の公式ホームページには、会議所の概要について以下に説明されている。「会議所とは：商工会議所は、私たち商工業者の力で、商工会議所法に基づいた会員制度の地域総合経済団体を、全国組織である日本商工会議所のもとに全国517の主要都市に設置され、密接なる連携により地域商工業の総合的な改善発達と、社会福祉の増進を図っており、経済界の基底となっている唯一の公的な団体です。都市を住みよく、働きやすい場所にするために、人と人との信頼を基礎に活動しています。」（http://www.hhcci.or.jp 参照）

[2003年度前期　インターン派遣学生：企業]

受け入れ先会社・団体名：株式会社　サタケ

実習学生：タイ、タマサート大学　教養学部日本語学科

主専攻：日本語　副専攻：海上運輸

実習期間：平成15年8月18日　～平成15年8月29日

実習部署：技術・生産、海外営業

実習内容：[技術試験演習]：実習内容（精白米・荒洗米の炊飯試験）

[生産組立実習]：実習内容（色彩選別機の部品組立作業）

[海外営業実習]：実習内容（海外部の役割の説明、貿易の基本説明、ショールームの機械紹介）

2）　市役所

東広島市役所の総務部に電話をし、インターン受け入れ依頼先を探している旨を伝え、担当職員と話した。市役所側もインターンシップ制度を持っており、受け入れについて模索しており、お願いしたい旨を伝えられた。訪問後の話し合いで、市役所の持つインターンシップ制度は有償であったため、短期交換留学生のインターン受け入れは別枠とし、授業の一環として無償で受け入れていただくことになった。受け入れ部署が決定後、学生本人を連れて訪問した。

[2003年度前期　インターン派遣学生：東広島市役所]

実習学生：オーストラリア、ニューイングランド大学、人文学科

受け入れ先会社・団体名：東広島市役所

実習期間：平成15年8月4日　～平成15年8月15日

実習部署：東広島市企画部企画課国際交流係

実習内容：国際化および国際交流の推進に関する事務等の補助

＜2004年度前期＞

２００４年度前期に日本語上級レベルでインターンシップを希望した学生は４人いた。一人が市役所を希望し、３人は企業を希望した。前年度の経験から既に人脈ができており、初年度と比べると、市役所、企業ともスムーズに交渉が進んだ。もう二人は日本語は初級レベルであったが、自分の専攻であるデザイン関係の東京の会社に連絡し、インターン受け入れの交渉をし、承諾を得た。

1）　企業

前年度協力いただいた東広島商工会議所に本年度も協力をお願いした。まず、４月に訪問し、今年は企業でのインターンシップ希望学生が３名いる旨を伝えた。また、昨年同様、参考のため、インターン希望学生の自己紹介、希望職種などに関する書類を渡し、企業への紹介に役立てていただいた。東広島市企業へのインターン派遣依頼数が昨年の１名から３名に増えた点については、無理があることも承知していたが、結果、依頼した３人全員の東広島の企業３社の受け入れが決定した。東広島商工会議所からの依頼に基づき、東広島市経済同友会[3]から協力が得られたことは大きい。受け入れ企業はジー・ピー・ダイキョー、中国精螺、サタケの３社となった。

インターンシップを続けていくことの最大の問題点は、企業側にかかる労力と時間である。それに対し、大学が何をもって応えることができるかを提示することが大切であると考える。企業が既に体制を作り、事業の一環として長期戦略に基づいてインターン受け入れを大規模で行っている場合は続行の見通しは明るいが、ほとんどの地元企業ではインターン受け入れは初めての試みであり、続行するためには、インターンシップの明確な目的の提示が大切となってくる。**実際、企業側は何を求められているのか、どういった形で進めれば大学・学生にとって意義のあるものになるのか把握しにくい。**しかし、インターン受け入れをお願いする大学側も、企業との関係が定着していない最初の段階から、あまり綿密な、程度の高い要求を出すことが難しいのが現状であり、互いに模索している関係にあるといえる。

ＨＵＳＡが企業への返礼として行っているのは、国際交流事業などへの積極的な協力である。商工会議所からの持続した協力を得るためには、商工会議所が関わっている国際交流事業について、協力を依頼された場合は、積極的に引き受け、協力し、相互援助の形をとることが重要となってくる。これまで、商工会議所の企画・産業課から留学生の出身国についての講話、外国からの訪問者通訳の手伝い、東広島酒祭りの出店ブース手伝いのための留学生の募集など依頼されたが、積極的に協力し、留学生との橋渡しをしている。留学生に地域との国際交流の場を提供していくためにも、今後も積極的に協力していきたい。

---

[3] 東広島経済同友会が１市の代表として加盟している広島経済同友会は、昭和３１年３月、日本経済の進歩と安定、会員相互の啓発、親睦を図ることを目的とし、企業人有志が結集して誕生した集団であり、よりよい経済社会の実現を目指すことを定めている。

[2004年度前期　インターン派遣学生：企業]

①　受け入れ先会社・団体名：サタケ株式会社

実習学生：韓国、慶北大学校、経済学部　経営専攻

実習期間：平成15年8月17日　～平成15年8月30日

実習部署：生産本部、海外事業部

実習内容：[生産組立実習]：実習内容　組立実習（生産）

[海外営業実習]：実習内容　海外貿易業務（海外）

②　受け入れ先会社・団体名：ジー・ピー・ダイキョー株式会社

実習学生：スウェーデン、リンシューピン大学、工学部　コンピューター、経営専攻

実習期間：平成15年7月26日　～平成15年8月7日

実習部署：品質保証部、生産管理部

実習内容：自動車部品製造に於ける採算管理及び品質管理の概要

③中国精螺株式会社

実習学生：タイ、タマサート大学、日本語専攻

受け入れ先会社・団体名：中国精螺株式会社

実習期間：平成15年8月2日　～平成15年8月12日

実習部署：業務部総務グループ

実習内容：総務グループでの事務研修

2）　市役所

前年度と同様、東広島市役所の総務部に電話をし、インターン受け入れを依頼したいので、訪問したい意向を伝えた。2003年度と同様、インターン受け入れの形はＨＵＳＡコースの一環として無償で受け入れが決定した。昨年と同様、企画部企画課国際交流係での受け入れが決定し、学生を連れて再度訪問した。

[2004年度前期　インターン派遣学生：東広島市役所]

受け入れ先会社・団体名：東広島市役所

実習学生：韓国、嶺南大学、文学部　日本文学・日本語学専攻

実習期間：平成15年8月2日　～平成15年8月13日

実習部署：東広島市企画部企画課国際交流係

実習内容：国際化および国際交流の推進に関する事務等の補助

官公庁・企業からの学生インターンについての評価・コメント

（達成度、熱意、学生のあげた成果、課題、問題点、今後改善すべき点など）

下記項目の**1－5までの5段階評価**ではほとんどが4か5で評価されていた。

- 礼儀正しい態度で任務を行ったか
- 熱心に研修に参加していたか
- 期待した成果をあげる事ができたか
- 社内・組織内の人達と積極的に交流したか
- 学生が知識を習得したと思うか

市役所 2003 年度

- 国際交流係の仕事のみならず、市の組織や業務等についても意欲的に学び、理解しようと努力し、一係員として責任をもって諸事務の補助等を行った。
- 明るく、日本語も流暢なことから、課内はもとより外部関係者とも積極的に交流するなど、一留学生として国際交流の推進に一役買った。
- 丁度、JICA 研修コース（カンボジア自治体行政コース）を実施中であり、諸行事を抱えている時期でのインターンの受け入れは、学生への指導とあわせて多忙を極めたが、本人にとって貴重な体験となったことと思う。

市役所 2004 年度

- 日本語能力が高いので、多彩な仕事を比較的容易に理解し、職員と同じように行動することができたように思う。
- 生活ガイドブックのチェックや、東広島紹介パンフレットの翻訳など、母国語を生かせる仕事に熱心に取り組んだ。
- 主に諸事務の補助等であったが、仕事に対する正確性や緊張感が多少欠けていた。補助とはいえ、大切な仕事であり正確性が求められる。最終的に確認し、完成品にするという基本的姿勢に欠けていたようである。そうした緊張感の欠如が、遅刻するということにも表れたのではないかと思う。
- 実習期間中にアメリカ・ドイツからの青少年訪問団の歓迎会や、外国人を集めての盆踊り指導があったり、また JICA の研修でインドネシアの内務省等の行政官が来庁し、市長表敬や市の組織と業務の研修などがあり、貴重な体験となったのではないかと思う。

企業 2003 年度

- （技術実験実習）与えられた仕事に対し責任感を持って積極的に取り組む姿勢が見られた。また、新しい知識及び技能の吸収に意欲的であり、常に問題意識を強く持っており、著しい技能の上達が見受けられた。
- （生産組立実習）数点の部品の組み立てを行い、作業の指示に対し忠実にまた正確に行っていた。いろいろな事に興味を持ち、積極的に実習に取り組んでいた。
- （海外営業実習）海外事業展開について理解出来て、特に STH には関心を持った。貿易実務をも基本的に理解された。また、製品の中で特に色選機には興味を持ち、旧モデルから新モデルへの技術的な違いも理解し、不明な点に積極的に質問し、前向きな姿勢であった。

企業 2004 年度

- まかされた翻訳業務を熱心に完成することができた。しかしながら、実際の貿易業務の話は学生にとって理解しにくかったと思う。今後インターンシップをする学生のレベルに合うプログラムを実行したいと思う。
- 当社では「インターンシップ規定」に沿って行うので、事前資料は不要である。
- 今回のインターンシップを通して、日本の企業内での会社側（役員）と従業員のコミュニケーションについて、日常業務または懇親会を通して感じとっていただいたと思う。また、数回にわたりタイの文化、タイ語の会話を紹介してもらい、タイ国に対する興味を更に深めることができ、ますます海外との交流を盛んにしていく土台となりそうである。
- 今後の改善と反省点：今回、交換留学生を受け入れることは初めてのことであり、受け入れ準備が不十分であったことは認めざるを得ない。次回からはインターンシップで学生が何をしたいのか事前に把握し、学生の要望に十分対応できるよう準備したい。
- 病気、急な都合で休む場合は電話していただきたい。メールだけでは不十分である。
- 研修に対しては、非常にまじめに、積極的な姿勢で取り組んでくれた。また、受け入れ先組織の社員とも気さくにコミュニケーションを図り、語学力の点でも特に問題となることはなかったようである。５段階評価のうち、「期待された成果」の点については、どこまでのどのような成果を事前に期待していたかが不明確なため、「３」の評価とした。

広島大学側のサービス、対応についての評価

市役所 2003 年度

- インターンシップ評価表は、受け入れの際に事前に交付されるほうが、期間中における日々の評価が容易である。
- 学生の成果を評価するに当たっては、毎日の就業体験の内容、理解度、成果、反省点などを日誌等にまとめて、受け入れ部署に提出させるような仕組みがあれば、より適正な評価が可能となると考えられる。

市役所 2004 年度

- このような評価のためには、学生に毎日就業体験内容やその成果及び反省点などを記入する日誌などを課し、提示させることが必要ではないかと思う。
- 実習にあたっての心構え（服装・勤務時間厳守・勤務中は私語をしないなど）を大学においても事前に徹底してほしい。

企業 2003 年度

- 特にない。

企業 2004 年度

- インターンシップの目標を具体的に提示していただきたい。
- 特に不満な点はない。

インターンシップの体験についての学生レポート（学生の感想、気付いた事、実習で学んだこと、企業にとって役立ったこと）

市役所 2003 年度

- 東広島市役所の部署の配置、企画課内の国際交流係の役割が理解できた。東広島市は教育及び文化交流を他の４都市と行っている。アメリカバージニア州のバージニアビーチシティ（1993 より）、中国の Deyang（徳阳）市（1993 より）、ブラジルのサンパウロにあるマリリア市（1980 より）、北海道の北広島市（1980 より）である。
- JICA（Japan International Cooperation Agency）と連携して地方自治に関してカンボジアの職員の研修を行ったり、水供給や衛星システムについて南米やカリブ地域の専門家養成も行っている。また、市民参加、学生交流のプロジェクトもある。さらに、東広島市国際化推進協議会とも連携し、サンスクエアを使用して文化交流、国際交流を促進している。このように地域の日本人と外国人との国際理解を推進するために市役所が取り組んでいるプロジェクトが多くある。

- 国際交流係の最も重要な職務は市の国際化の推進である。日本人の外国人への理解を深め、外国人が日本文化や生活様式に溶け込めるよう援助している。私がインターンシップに申し込んだ目的は、東広島の国際化の程度を観察し、外国人にとってより住みやすい場所にするため努力している担当者に会うことであった。
- 国際化に向けたポジティブな変化からあげてみよう。2003 年７月、東広島市役所は、福岡に８年在住しているカナダ人の方に日本の国際化についてのスピーチをしてもらった。その際、地域住民と話し合いの場を設け、外国人の日本人についての考えや地域住民の声を聞く機会を持った。このような機会は日本人の視野を広め、町に住む外国人についての見識を広げることになると思う。特に外国人と接触する機会があまりなく、異なる視点から自国についての意見を聞く機会のない東広島のような地域では特に有益であると思う。
- 市が、カウンセリングサービスや図書館施設に関してなど、重要情報やニュースレターの訳を多言語で提供しているのは、国際化へ向けての変化の現れである。このようなサービスは外国で援助の必要な外国人にとっては貴重なものである。
- 外国人とあまり接する機会のない日本人は、外国人や文化の相違に対して大変警戒心が強く、また無知である。誤解を招き、困惑することも少なくない。外国人と話すことに慣れていない大人は外国人に対してものおじすることもあり、言語の壁はかなり大きな問題である。外国人へのステレオタイプもあまり変わっていない。これらの問題は、国際化への認識に向けて努力を重ねている国際交流係の障壁となっており、より幅広い人々へ努力が伝わっているかどうかは疑問である。
- 東広島市によって組織されるイベントは人員の整備、印刷物準備、経費、承認など、実施までにプラニングのためにかなりの時間と労力を要する。従って、実際に実施できるイベントの数や、イベントの種類には限りがある。幸い、市がスポンサーとなっている国際クラブが、外国人と日本人がリラックスした雰囲気の中でコミュニケーションできる場を提供している。
- 典型的な日本の職場で働くことができて、自分の目で、ビジネスミーティングがどう行われるかを見ることができた（フォーマルなものとインフォーマルなもの両方）。さらに、オフィスの中で物事がどう進められ、職員がどのようにコミュニケーションをとっているのかを観察できた。はんこの使用手順、根回しはとても独特で自国のオーストラリアとは異なっていた。
- ミーティングに出席したり、敬語を使用したりする経験もでき、決してきちんとはできないと思っていたが、日本語で電話をかけることも体験できた。

- 二週間では、やっと仕事がわかりかけた時点で去っていかなければならない。しかし、それでも市役所の職員がどのような仕事に従事しているかをつかむには十分であった。このような機会を与えていただき、また企画課国際交流係の方々には大変お世話になり、お礼申し上げたい。

市役所 2004 年度

- 市役所では主に国際交流活動に関した事務補助・ワープロ作業・行事の参加などをした。
- 「2004 バージニア州青少年東広島交流」があるので、そのホストファミリーとアメリカから来る青少年達の名簿を作成して欲しいとのことだった。
- 私が勤務した企画部は企画課（企画係・調整係・国際交流係）、財政課（財政第１係・財政第２係）、市政情報課（広報統計係・情報管理係）となっている。出張も多いし、仕事も多い。毎日が残業である。
- 二日目からはだんだんみんなと話せるようになった。ランチも一人ではなく、国際交流係の二人と一緒に食べるようになった。向こうから誘われてすごく嬉しかった。やはり、食事を一緒にすることはいいことだった。
- 役所は手続きが多いため、郵便一つ出すのにも書類を書いた。面倒くさいが、これが市役所だと思った。
- 午後から予定されている「2004 バージニア州青少年東広島交流」で使えるものを準備した。昨日から全部準備されていたが、もう一度確認をした。確認の連続が市役所の仕事である。国旗掲揚をしたが、すごく難しい作業で手を焼いた。何回もテープを貼ったり取ったりして大変な作業だった。国旗は敏感なところなのできちんとしないと後から責任問題になるから何回もやり直した。国際交流活動がどれくらい大変な仕事かを実感した一日だった。
- まだまだ敬語は難しい。
- 東広島のパンフレットは日本語版と英語版がある。「最近は韓国との関わりも増えているから、韓国版を作成してください」と頼まれて、韓国版のショートパンフレットを作成した。また、東広島市の生活ガイドブックの修正をした。
- インドネシアから来た行政研修チームと一緒に講義を受けた。東広島市役所には年に１回インドネシアから地方自治に関する研修団の訪問がある。東広島市役所の行政機関の分類、仕事などについて勉強をした。

企業 2003 年度

- 日本は材料を手に入れることから商品が完成するまで、すべての手段が大切にされ、

その手法により日本では質の良い製品ができ、その名は世界中に知られているので、私は以前から日本の会社の経営方法に興味を持っていた。

- 日本の豊かな経済発展は、良い企業の経営方法によるところが大きい。理論と実践は別である。そこで、日本の企業で就業実習をしようと思い、インターンシップという授業科目を受講した。
- 初めの日、働く前に、会社の沿革をはじめ、企業分野、営業の概要など、会社について手短にビデオを見せてもらった。
- 毎日ラジオ体操をすることになっている。人事課の部屋から体操の音楽が流れてきて、その音楽に合わせて身体を動かす。そして、会社の綱領を一緒に言う。その内容は
  「一つ我らには世界最高の商品を開発普及する使命がある。」
  「一つ我らには顧客への奉仕と文化の向上を期する責任がある」
  「一つ我らには総親和のもと会社と従業員の繁栄を計る義務がある。」
  この文章を社員はよく覚えているそうだ。しかも、皆その通りに一生懸命働いているように感じた。
- その後は、代表者が会社の心得を先に言った通りに他の人が繰り返す。この心得は上の人が作ってくれて、毎年変わると聞いた。
  「全員営業マンとなって、売り上げをあげよう」
  「ムダを省いて、利益をあげよう」
  「すぐ着手して、スピードをあげよう」
  「チェック、チェックでミスを減らそう」
  「計画的に業務を行い、時間外を減らそう」
  「自分の責任で考える自立社員になろう」
  「視野を広げて、気のつく人になろう」
- 休憩時間は 10 時から 10 時 10 分までの 10 分間と、12 時 00 分から 12 時 40 分までの 40 分間、14 時 30 分から 14 時 40 分の 10 分間である。勤務時間にはトイレに行ったり、水を飲んだり、キャンディーをなめたりする社員がめったにいない。皆休憩する時間まで我慢しているようだ。
- 日本の残業システムは結構厳しいと聞いた。上司が残業したら、部下は一緒に残業せざるを得ない。ところが、この会社では多忙な時だけ残業すればよいという。普段は社員の要望により、残業するかしないか自由に選択できる。
- 顧客の立場になって考え、顧客の気持ちを重視して商品を開発していることは、大きな魅力だと思う。

- 小さい部品から組み合わせて大きい機械になるまでは簡単なことではない。私の作業は部品の組立をすることだった。例えば、スクリューで締め上げたり、ものを押さえたりすることは複雑な仕事ではないけれども、細かいところまでちゃんと気をつけなければならない。少しでも間違えば次の工程に大きい問題が起こるはずだ。この問題回避のため、会社では予防をしていた。
- 働いている人は、どの作業でも完了した後は他人に確認してもらうことが決まっている。作業名、品確認、合格・不合格・手直しという項目を評価する必要がある。そして、作業集計表という報告書がある。皆自分の紙に完成した仕事を記入しなくてはならない。詳細な時間を開始から終了まで記録する。
- 海外営業チームで、海外部の役割説明、会社の海外拠点の役割説明をしてもらった。海外部の受注・手配・出荷・代金回収の流れが理解できた。
- 日本の文化・社会・雇用システム・企業の経営方法について理解をより深めることができた。また、私にとって、昔から興味のあった貿易について学べたことがとても嬉しかった。
- 学生として留学してきたが、大学だけでは学べない働くことの大変さ、人間関係、専門用語など様々なことを学ぶことができた。
- 何も分からなかった私が、たくさんの失敗を繰り返しながら会社の人たちの優しさに触れ、成長することができたと感謝している。言葉で通じなくても、何度も間違ったり、迷惑をかけたりを繰り返しながら分かってきたこともあると思う。

企業 2004 年度

＜サタケ＞

- 会社がどのような製品を造っているのか、現場で体験してみるのも大事だと思いますが、五日間も同じ単純作業で終わるのはもったいないと思った。
- 日本語を韓国語に訳す仕事を任せられた。会社は世界の様々な国に製品を輸出していて、韓国との取引も増えているようであった。実習期間も、韓国からのお客訪問があり、海外営業部は来客対応の準備で忙しく、私も来客のためのプレゼンテーションの翻訳を頼まれた。専門用語が多く、よく分からないこともあったが、翻訳しながら自然に自分の勉強にもなった。部長に韓国語の資料が用意できてお客様に喜ばれたとほめられ、よかった。
- 私が本当に学びたかったことは、大学の授業で学んだような海外取引の形態や流れなどの理論的な説明ではなく、その取引が実際どのように行われているのかだった。将

来、貿易会社に勤めたいと思っていても、会社に入ってどのような仕事をするのか全然見当がつかなかったので、それを体験してみたかった。

- 自分が知りたいことを聞いてみようとしても、皆自分の仕事で忙しく、他の人と話すこともあまりなかったので、私もなかなか話しかけられなかった。
- 実務についての経験が全くなく、その中で自分は何が分からないのかもよく理解できていなかったので、知りたいことを相手にうまく伝えることも難しかった。
- その仕事をしている人には当たり前のことであって、質問しても詳しい答えが返ってこない場合もあった。
- 工場での実習は肉体的に疲れたが、事務室での実習は精神的に疲れた。
- 日本の会社での第一印象は皆一生懸命働いていることだった。他の社員と仕事以外に話すことはほとんどなく、皆仕事ばかりしていたので、最初はその雰囲気になかなか入り込めず、少し落ち込んでいた。
- 若い社員たちと飲み会があって、自分が知りたかったこともたくさん聞いたし、和やかな雰囲気でいろんな話ができた。
- 今まで会社でも、お昼は一緒に食べに出かけたり、休憩時間にはコーヒーでも飲みながら話すぐらいの余裕はあると思っていたが、今回の実習で自分が会社での仕事を甘く見ていたことが分かった。
- 日本人は働きバチという話をよく耳にするが、それを実感した。出勤時間より早く来て、退勤時間より遅く帰るのは当たり前のことで、お昼の時間や十分間の休憩時間でもお互いに話しながら休むことはほとんどなく、皆パソコンの前に座っていた。仕事が多くて忙しいことは分かるが、一日のほとんどの時間を過ごす職場で少しでもゆっくりできる余裕がないと、仕事の能率が上がらないことはもちろん、ストレスがたまるのではないかと心配だった。
- 一生懸命仕事をすることは良いが、楽しみながら仕事ができたらもっといいと思った。
- 会社というもっと広い共同体での対人関係や仕事上の付き合いについてもう一度考えさせられる機会だった。
- 最後の日は、インターンシップ生皆が集まって十日間のインターンシップについての感想を話し合う場が設けられた。それぞれ違う分野に興味を持っている学生たちと一緒に実習させていただき、もっと豊かな経験になったと思う。

＜中国精螺＞

- 会社では多くの側面からものを見られる人材が欲されている。毎日の自分の仕事と義務に最大の努力を積み重ねていくことが、顧客の信頼につながると信じている。顧客

の立場に自分を置き、顧客の立場から商品の改良に向けて最大限の努力をすることを会社の方針としている。

- 部品生産における正確さとコントロールシステム及び作業員の質は業界トップレベルであることを誇っているが、さらに改良に向けて努力していく所存である。会社は、時間と場所を問わず安定した製品供給ができるよう、製造と配送ネットワークとの連携を高めるため常に努力を続けている。
- タイでの研修にまもなく出発する従業員に、毎日午後タイ語を教えた。

＜ジー・ピー・ダイキョー＞

- 日本の会社のしくみと、上下関係を観察する機会に恵まれたが、日本の会社内での社員同士の結びつきはかなり強く、日本の会社の社員に大きな影響を与えている。
- 日本企業の卓越した製品プラニング、ロジスティックス、及び品質管理は知名度が高く、この点に焦点をあててみたかった。
- 会社のスローガンは、「文化の創造」であり、目的は「人間、環境、将来にとって環境的にフレンドリーで、豊かで、マイルドな文化の創造」である。
- 帽子（キャップ）の色による従業員の勤務形態の色分け（正社員、人材派遣業からの派遣社員、新入社員）、ネームバッジによる所属部署の表示がみられた。

今後のインターンシップコースに向けての取り組み

インターン派遣先からの評価、コメントなどについてよく吟味し、これまでの取り組みについて反省し、官公庁・企業との継続した協力を心がけ、さらに充実したインターンシップコース開講に向けて尽力していきたい。当初はどこまでインターン派遣先に要求してよいか模索する状態であったが、派遣回数を重ねるにつれて少しずつ企業・官公庁からの要望も明確になり、大学から何が要求できるかも理解できてきた。インターン受け入れ経験のない企業・官公庁側は、どういった形で受け入れるべきか、学生が実際何を求めているのかを捉えにくく、学生の要望に十分応えられなかったことをふまえて今後は対策を講じたいと考えていることが分かった。そのためには、派遣決定後は学生の綿密な要望の提出が必要となるであろう。受け入れ側から学生に合ったインターンシップを実行する要望をもって下さったことは感謝すべきことである。商工会議所の協力で地元企業との円滑なコミュニケーションも可能な状態となり、次年度は３回目でインターン受け入れも定着してくる中、企業・官公庁への明確な目的、目標の提示が必要となってくるであろう。

またインターン派遣先からの評価報告を提出していただいたことで、留学生を派遣するにあたって念頭においておかなければならない点も明確になってきた。まず、基本の姿勢として、学生としてではなく、きちんとした社会人の意識を持たせて派遣する必要性があることが分かった。派遣前に、もう少し時間をかけ、社会人としてのマナーや言葉遣い、服装、時間厳守などについて指導したい。さらに、インターンシップ中は、学生でなく、一社会人であり、緊張感を持って、責任ある仕事をすることを心がけるよう指導したい。企業・官公庁の多忙なスケジュールの中、２週間しか研修しない留学生のインターンシップ受け入れは、やはりかなり労力・時間を要するため、少しでも役に立てる部分では責任をもって正確に仕事を提供することが大切である。母国語と日本語の翻訳、自国の文化の紹介などで留学生が役に立てたことは嬉しいことである。派遣先の職員の方々との職場でのコミュニケーションを国際交流の一部と捉えていただけたことはありがたい。今後も、多大な労力と時間をかけていただく受け入れ側に対し、言語習得や異文化理解など国際交流に関連した分野で何らかの役に立てる策を講じていきたい。

学生のインターンシップの体験報告、レポートを読んで、教職員も学ばされることが多いのではないかと思う。留学生が気付いた日本の会社・官公庁での習慣や労働に対する態度は、私たち大学職員も改めて考えさせられるものがある。自国と異なる日本の職場でのコミュニケーションのとり方や仕事終了の確認の方法、労働に対する会社からの教示、社員の労働に対する態度についての留学生の気付きは鋭い点をついている。

広島大学と地域との国際化へ向けての連携が期待されており、これまでも積極的な取り組みが進められてきた。私が２００３年４月に広島大学短期交換留学プログラムのコーディネーターに赴任してからも、様々な形で地域との連携に関わってきた。留学生のインターンシップ体験が、広島大学が地域との国際化へ向けての連携にどう取り組んでいくべきかを示唆してくれたように思う。東広島市役所の国際交流係に配属された留学生のインターンシップ体験報告からは、広島大学のおかれている東広島市の国際化への努力、取り組みが多少なりとも理解できた。地域社会の国際化に疑問を持つ留学生自身が、当問題に取り組む部署に配属されたことで、地域の国際化を進めるに当たり実在する問題についてかなり鋭い指摘をしていると言える。今後もインターンシップを通じて地域との連携を図っていくとともに、留学生からの指摘にも耳を傾け、地域と連携して真の国際交流ができるよう尽力していきたい。

短期交換留学用インターンシップ科目シラバス

科目のタイプ：　Special Courses

科目名：　HUSAプログラム用インターンシップ
Internship for HUSA program

単位数：　２単位

開設期：　１６年度前期

担当教官　（日本語）二宮　皓、堀田泰司、恒松直美
（英語）　Akira NINOMIYA, Taiji HOTTA, Naomi TSUNEMATSU

概要：　This is an internship course designed for international students of HUSA (Hiroshima University Study Abroad) program. The course offers a working experience in a Japanese public or private entity (company, public organ, NPO etc.) to further the student's understanding of Japanese culture, society and working practices. While the student is working, he/she needs to conduct research related and beneficial to the entity where he/she is assigned to. The student's performance will be evaluated by a supervisor at the workplace who will regularly report the student's performance to the instructor at Hiroshima University. The student has to make a presentation on his/her work experience and research project. As a final project, the student has to write a term paper on the basis of research-materials collected at the work place

このインターンシップ科目は、短期交換留学（HUSA）プログラムの特別聴講生を対象とした科目である。この科目は、日本の行政機関、公的機関及び、企業における就業体験を通して、日本の文化・社会・雇用システムの理解をより深めることを目的とする。学生は、インターンとして勤務中、その機関・企業に関する有益な調査・研究を行なわなければならない。学生の評価に関しては、勤務先の責任者が定期的の勤務評価を科目担当教官へ報告し、学生は、８０時間の就業体験終了後、インターンとしての経験と最終レポートについて口頭発表しなければならない。また、学期の終わりには、就業体験先での調査結果をもとに日本の文化・社会・雇用システムについて最終レポートを提出しなければならない。

シラバス：

Pre-Requisite: Student has to have an advanced level (level 5)of Japanese language proficiency

履修の条件：　履修生は、日本語能力が上級(レベル５)でなければならない。

Textbook:　Xeroxed materials will be distributed by the instructor prior to the class.
教材：　教材は、すべてコピーで渡される。

Class Work: (授業 [評価] 内容)

1.	**Work as intern:** インターンとしての就労体験	80 hours of work at a Japanese public office or private company 日本の行政機関・公的機関または、企業における８０時間の就業体験
2.	**Presentation:** 口頭発表	Presentation on their work experience and his/her research project after the completion of work experience 就業体験終了後、就業体験とフィールド調査・研究について発表する口頭発表
3.	**Final Report:** 最終レポート	Term paper regarding the Japanese culture and society with an appropriate data collected at the work place. 就業体験先での調査結果を下に日本の文化・社会についてまとめた最終レポート

Grading:

成績評価

Company's Evaluation Report 勤務評価	20%
Student Presentation　口頭発表	30%
Final Report　最終レポート	50%

3. **Schedule :**
日程

Class 1 第１回目の授業	Introduction of internship program and Japanese employment system and management インターンシッププログラムの紹介と日本の雇用と経営についての概要
Class 2 第２回目の授業	Orientation at a work place (at site, done by the employer) 就業体験先でのオリエンテーション
Duration of work experience 就業体験期間	80 hours 80 時間
Class 3 第３回目の授業	Student's feedback and final discussion. Presentation on one's own experience and final report. Submission of a final paper 学生からのフィードバックと最終ディスカッション 学生による就業体験先での経験と最終レポートに関する口頭発表 最終レポートの提出

広島大学短期交換留学プログラムインターンシップ科目登録
HUSA Internship Course, Student's Application Form

ふりがな：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ (in Katakana)

名前：　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ （男　女）　年齢/Age:
Last name　　First name

学籍番号/ID #：＿＿＿＿＿＿　生年月日/Date of Birth：　　年　月　日

国籍/Nationality：

本籍大学/Home Institution：

(本籍大学での) 学部/Faculty: ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　学年/Year：

専攻/Major:

語学力 (5 段階、レベル 5 が上級、1 が初級)：　英語：　/5　　日本語：　/5

その他の言語：

現住所/Address：

電話番号：＿＿＿＿＿＿　FAX：

参加希望期間・時期/ Duration or semester of work：

希望企業名・業種/ Company's name or type：

実習志望書（過去の実績、希望職種、希望実習形態、動機や意欲等）/ Statement of Purpose

短期交換留学プログラムインターンシップ評価

実習学生氏名

受け入れ先会社･団体名

実習部署 _____連絡先

実習期間

1．下記の項目について5段階で評価し、あてはまるものにOをつけて下さい。
1を低い評価、5を高い評価とします。

礼儀正しい態度で任務を行ったか	5	4	3	2	1
熱心に研修に参加していたか	5	4	3	2	1
期待した成果をあげる事ができたか	5	4	3	2	1
社内・組織内の人たちと積極的に交流したか	5	4	3	2	1
学生が知識を習得したと思うか	5	4	3	2	1

2．インターンをした学生についての評価・コメント
（達成度、熱意、学生のあげた成果、課題、問題点、今後改善すべき点など）

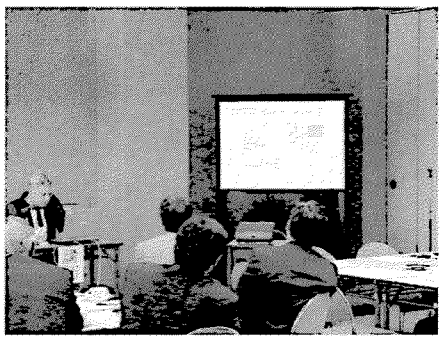
3．広島大学側のサービス、対応についての評価

4．来年度のインターンシップ受入予定についてひとつにOをつけて下さい。
A. 来年度も受け入れたい　B. 来年度は参加を控えたい
C. 現時点では判断できない

Bを選択された場合は、その理由をご記入願います。

（　　）

[広島大学ホームページ掲載記事]



広島大学では８月 20 日、「広島大学短期交換留学プログラム」(Hiroshima University Study Abroad Program：HUSA) 受入れ留学生によるインターンシップ発表会を、東広島市産業振興会館において開催しました。

発表会では、2004 年度前期（春学期）インターンシップコースでインターンシップを体験したＨＵＳＡ留学生６名のうち、東広島市内の企業に受け入れていただいた３名（スウェーデン・リンシューピン大学・Per Guhres、韓国・キョンポック大学・Jiyoung Shin、タイ・タマサート大学・Thanaworrapak Vashirawon）が、それぞれインターンシップの経験・感想などについて熱心に報告を行いました。

発表会には、東広島商工会議所の関係者、インターンシップ受け入れ企業や地元各企業の関係者、広島経済同友会広島中央支部役員会の関係者の方々３７名が参加されました。広島大学からは牟田学長をはじめ、二宮（国際担当学長補佐）、堀田（短期交換留学プログラム担当教員・留学生センター）、恒松（インターンシップコース担当教員・留学生センター）、国際部職員が参加しました。

「広島大学短期交換留学プログラム」では、2003 年度春学期から、授業科目として「インターンシップコース」を開講し、単位（２単位）も併せて認定しています。

インターンシップコース開講に当たっては、昨年から東広島商工会議所の協力を得て企業への交渉依頼を行い、昨年は１名（株式会社サタケ）、本年度は３名（株式会社サタケ、ジー・ピー・ダイキョー株式会社、中国精螺株式会社）の地元企業への派遣が可能となりました。

また、企業以外では、東広島市役所にもご協力頂き、昨年１名、本年度１名をインターンとして派遣している他，地元以外では東京方面へ３名のインターンシップ派遣を展開しています。